



宇宙産業を担う

NEWS CIT

2023
ニュースシーアイティ 12.15

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 館野さん国際会議で学生発表賞/清水さん優秀発表賞/内田さん論文発表賞/薫田さん高橋さん奨励賞/インフルワクチン今年も学内無料接種
- 3面 三橋さん優秀講演賞/毛利セッション西村さん最優秀賞、3人も敢闘賞/5年度前期グッド・レクチャー賞/就職・進路支援便り
- 4面 亀田研がアジア2大学招きマイクロプラ学習/教育功労者に先川原氏・村越氏/津田沼1号館前にイルミネーション/校友「橋本秀利さん」
- 5面 第74回津田沼祭
- 6面 建築・遠藤研が体験型空間展示/ロケガ高校生終了報告会/新任紹介

高度育成プログラム順調に進行

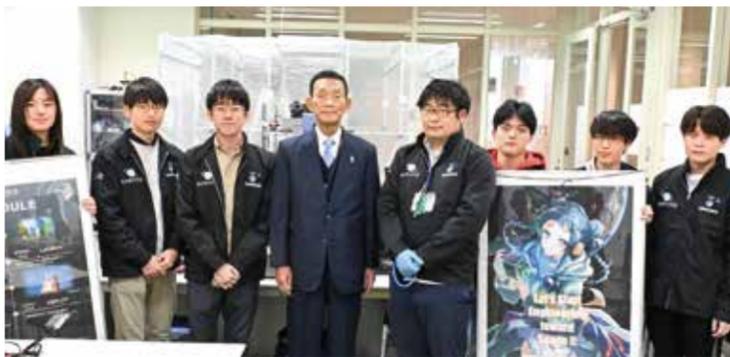
■ 本学が始めた宇宙産業の「高度技術者育成プログラム」は順調に進行。学生たちが製作した超小型衛星2号機「KASHIWA」が、審査中の1号機に代わり先に11月、宇宙航空研究開発機構(JAXA)に引き渡された。来春の米国での打ち上げを待っている。

超小型学生衛星 来春、宇宙へ



伊藤穰一学長(中央)を囲むメンバーたち ⑤は超小型衛星「KASHIWA」

「世界文化に技術で貢献する」—建学の精神に基づき、本学は2021年4月に育成プログラムを開始した。惑星探査研究センター(PERC)の指導を受けながら、学生たちが1辺10センチの立方体の超小型衛星キューブサットII重量約1キログラムを基本設計、製造し、ミッションを考案している。今回2号機のミッションは、撮影した画像を地上で復元することを最小限の成功と設定しているが、プログラムの目的とし



瀬戸熊修理事長への報告会で



高橋さんが作成したキャラクター



真剣に作業に取り組むメンバーたち

「世界文化に技術で貢献する」—建学の精神に基づき、本学は2021年4月に育成プログラムを開始した。惑星探査研究センター(PERC)の指導を受けながら、学生たちが1辺10センチの立方体の超小型衛星キューブサットII重量約1キログラムを基本設計、製造し、ミッションを考案している。今回2号機のミッションは、撮影した画像を地上で復元することを最小限の成功と設定しているが、プログラムの目的とし

トを現場で支え、任せられる製造者が絶対的に不足している。高度育成プログラムは、この問題がいずれ生じることを見越して発進したもので、国内に先駆けて「きちんと衛星を作れる人材を育成すること」を目的としており、宇宙産業の人材育成・供給につながる期待されている。予定が決まった「KASHIWA」に続いて、1号機、3号機も打ち上げの準備が進められている。

地に樹木が残っていることが多いといわれる。どんなことがあっても必ず動作する衛星を開発する、と強い思いを込めて命名しました。学生たちは授業の合間や夏休みに製造・組立・地上実証を進めてきた。宇宙での運用に耐えられるか試験を重ね、NASAやJAXAへの申請手続きも学生自らが行ってクリアした。関口さんは「学科が違っても学生自らが行ってほしい。描いたのはカバーが、衛星を作り上げる同じ志を持ち、ともに困難を乗り越えながら1つのものを作り上げてきた。ものづくりでは、自分の作ったものに責任が伴うこと、その責任を果たすための緊張感、普段の学業だけでは経験できない」と意義を語っている。



JAXAに2号機を納入し記念撮影



超小型衛星の設計・検証作業

地上車用 衛星アンテナを工夫

館野さん学生発表賞 ▼ 国際会議で



2023年通信のための新興技術に関する国際会議（ICETC 2023）11月29日～12月1日、札幌市の道民活動センター「かえる2・7」で開催された。館野允弥さん（情報通信システム工学専攻修士1年、長敬三研究室II写真）が「衛星通信用TM11円形素子とTM21円環素子を組み合わせたマ

イクロストリップアンテナに関する研究」を英文でポスター発表し、学生発表賞を受賞した。現在、移動体が衛星を介して通信する需要が高まっている。航空機に搭載する衛星通信アンテナは研究が進んでおり、館野さんは新たに地上車両用の衛星通信アンテナの研究に着手した。だが、

①地上車は航空機より搭載面積が狭く、アンテナの小型化が必要②平面アンテナはたやすくビーム操作（衛星追尾）できるが、天頂方向に比べ広角方向で通信性能の劣化が見込まれる――の課題がある。

館野さんはアンテナサイズの小型化を図りながら平面アンテナに、天頂方向に指向性を持つ円形素子（TM11素子）と広角方向に指向性を持つ円環素子（TM21素子）の併用を検討。この構造をとることで、衛星追尾したい方向によってTM11素子、TM21素子を切り替え、どの方向でも性能を維持できるようにし

視覚障害者の歩行 VR支援

清水さん優秀発表賞 ▼ CDS研究会



情報処理学会の第38回コンシューマ・デバイス&システム（CDS）研究会（9月25、26日、長崎大とZoomで結んで開催）で、清水信作さん（知能メディア工学専攻修士2年、森信一郎研究室II写真）の「視覚障害者遠隔支援システムにおける初回誘導時の歩行者情報提示に対するオペレータの指示精度向上について」が優秀発表賞に決まった。10月14日発表された。

視覚障害者の単独歩行は、環境情報を十分に得られず危険を伴う。点字ブロックや盲導犬は十分に

に確保されず、地域で提供される同行援護も利用率は推計10%以下。スマートフォンによる援護サービスも、周辺情報を取り込めず難しい。清水さんは360度カメラ・VRゴーグルを用いて遠隔地に歩行者と同様の環境を作り出すシステムを考えた。

クラウドから援護者がシステムに入って歩行者の環境を認識し、誘導する仕組み。だが対象の障害者がオペレーターにとって初めての人の場合、歩行速度や右左折の挙動を知らないで、正しいタイミングでの制御が難

そこで人の制御に関する動きを分析し、共通する動きのクラスター（群れ）を学習し、このクラスターを事前にオペレーターに提示することで指示タイミングの正確性を向上させるシステムを検討した。

Zoomで発表の際、指示棒でスクリーンを指したが、全体像の説明から自分が行った内容に落ち込んでいくのが難しかったという。

清水さんは「発表へ向け準備したことが結果に出て、とてもうれしい」と感想を述べた。

た。

また、円環素子の内側に円形素子を入れたことで、素子全体を小型化することもできた。

アンテナサイズを拡大して高性能化するのではなく、逆に小型化しながら目標をギリギリ満たす素子構造を工夫した点が受賞につながった。

館野さんは「発表と語った。

を」評価していただき栄で、今後の励みにしたいと思います。ご指導くださった長先生、研究室メンバーに感謝します」と語った。

MOSFETの影響を考慮した発振器

内田さん論文発表賞 ▼ 佐渡で授賞式



電気学会・半導体電力変換研究会で内田東さん（電気電子工学専攻修士2年、魏秀欽研究室II写真）が昨年発表した「MOSFETのゲートドレインとドレインソース間の非線形寄生容量を考慮したE2級発振器の設計」がこのほど優秀論文発表賞に決まり9月21日、新潟県佐渡市・八幡温泉で授賞式があった。

研究は、ソフトスイッチング技術を用いた高効率小型化が期待されるE2級発振器について。そのスイッチングに利用されるMOSFET（トランジスタの一種）に連続パルスのドレイン電流が流れるとき、ゲートドレイン間とドレインソース間に発生する寄生

発振・振動が誤動作を招くことがある。内田さんらは、その非線形寄生容量を考慮しながら、最適と思われる設計手法を示した。

論文は昨年7月、電気学会が電子情報通信学会と連携して名古屋で開いた研究会で発表され、論文集に収録。年をまたぎ受賞審査が続いていた。内田さんは「学会で初

インフルワクチン 無料で接種

学内、昨年に続き

季節性インフルエンザの予防にはワクチン接種が有効とされ、本学では学生の健康と安全が第一と考え、インフルエンザワクチンの接種を昨年に続き大学負担（無料）で実施した。対象は本学学生と教職員ら。

実施期間は▽新習志野キャンパスで11月6～8日▽津田沼キャンパスで11月22～24日の各3日間ずつ計6日間。事前に学生、教職員から

ポータルサイトで予約申請を受け、学生2583人、教職員371人が接種を受けた。

季節性インフルエンザは例年、秋から冬に流行するが、今年より早い時期から流行の兆しが見えていた。ワクチン接種を受けた学生たちからは「病院に行かなくても接種できるため、希望した」「普段は4千円くらいかかるインフル接種が無料で受けられ、ありがたい」と感謝の言葉が寄せられた。

④教職員たちも今年は早めに
⑤ワクチン接種の受付(津田沼キャンパスで)

睡眠と地域構造 奨励賞

薫田さん高橋さん ▼ 統計分析コンペ

総務省統計局、日本統計協会などが共催した「統計データ分析コンペティション」(オンライン公募)は10月18日「統計の日」に結果が発表され、大学生・一般の部で知能メディア工学科・齊藤史哲准教授の研究室の薫田千雪さんII写真右IIと高橋希帆さんII同左(ともに4年)共著の論

文「変数重要度に着目したクラスターリングによる社会構造と睡眠時間の関係性の解析」が審査員奨励賞を受賞した。

2人はワークライフバランスに大切な「睡眠時間」と産業・社会構造など「地域の特徴」との関連を分析。地域の産業別従事者数などのデータに基づき Atlanta

た研究会で発表され、論文集に収録。年をまたぎ受賞審査が続いていた。内田さんは「学会で初

Proagation (機械学習手法の一つ)によるクラスターリング(類似別にグループ化)分析する方法)を通じて代表的サンプルを抽出し、睡眠と地域との関連性を描き出した。

薫田さんは「基礎知識が不足し手探りで始めたコンペは、非常に厳しい挑戦でしたが、努力が結果に表れ、うれしい。分野や卒論に向けて頑張ろうという気持ちになりました」と語った。

高橋さんは「データの扱いに慣れる目的でコンペに参加したの



ロケット固体推進薬の開発で

三橋さん優秀講演賞 火薬学会発表会

火薬学会の2023年度秋季研究発表会（11月9、10日、福岡市の九州産業大で開催）の学部生（機械電子創生工学科4年、和田豊研究室II写真）の「LTPの燃焼速度制御（触媒効果）」が優秀講演賞を受賞した。



三橋さんは、ロケット用固体推進薬の燃料兼結合剤（バインダー）を、熱可塑性を持つ低融点熱可塑性樹脂（LTP）に変えて低コストな固体推進薬の開発に挑んでいる。

従来のバインダーは硬化剤を用いて化学反応により推進薬を硬化させるが、精密な温度、湿度の管理が必要になる。だがLTPは60度付近で溶融し、それ未満では硬化するため高度な温度管理は必要ない。硬化剤使用では硬化に1、2週間かかるが、LTPは60度未満で硬化するため製造時間・コストの大幅な削減が見込まれる。

しかしLTP推進薬（LTP）は性能がまだ不明な点が多く、三橋さんは現在、推進薬の性能評価に必要な線燃焼速度を計測。観測ロケットや大型固体ブースターなどに要求される性能をめざし線燃焼速度領域の拡大を図っている。また、LTPの燃焼挙動を高速カメラで観察中で、光学的な燃焼現象の理解にも貢献していると認められた。

熱可塑性を持つ推進薬は従来と違う点が多く、製造・成型方法はすべて手探り。高速カメラは撮影が火花を伴うのでピント調節に苦労した。

三橋さんは「研究を評価していただき、うれしく思います。支えてくれた先生方や先輩に感謝しています」と語った。

感謝します」

菅原 陸さん

「Cu-Fe合金融体の表面張力測定・ISSでのThermal Storageプロジェクトに向けて」

地球温暖化の抑制や省エネ社会へ向け産業排熱の蓄熱利用が進むが、現在の蓄熱材は、高温利用できず蓄熱能が低いなど課題がある。解決へ向け国際宇宙ステーション「きぼう」でCu-Fe合金の正確な熱物性計測が計画されている。その計画を成功に導くため地上で電磁浮遊炉を用いて実験試料の蒸発による組成変化や表面張力に作用する酸素の影響を調査した。

「目標や話し方、声の大きさなどの反省点を次回に生かしたい。小澤先生に心から感謝します」

張力に及ぼす組成と酸素吸着の影響」

船舶、自動車、パイプラインなどの製造には鉄系材料の溶接が欠かせないが、雰囲気中にある酸素が溶融金属にわずかに吸着するだけで溶接形状が変化する。

そこでこれを制御するために必要な、Fe-Cr合金の表面張力、組成、酸素吸着の関係を、試料を浮遊状態に溶融できる電磁浮遊炉を利用して初めて定量的に明らかにした。

金属融体の限られた実験データを元に、合金融体の表面張力を推算するモデルを構築。重量の影響がなく正確な値が測れる宇宙実験の結果と非常によく一致し推算モデルの妥当性が確認された。

ポスター発表は、足りない知識や別のアプローチの提案などが多かったことに加え、心から「光栄な賞をいただきとてもうれしい。小澤先生、栗林先生（千葉工大附属研究所）、研究室の先輩方のおかげで、心から感謝します」

堀内 豪暉さん

「Fe-Cr合金融体の表面張力測定」

「分割型ノズルを用いたガスジェット法による白金融体の密度計測」

高温融体プロセスの最適化には、正確な熱物性データが必要。電磁浮遊炉や静電浮遊炉の利用が進んでいるが、使用材料が限られ、装置も複雑高価。あらゆる材料に適用でき、装置が単純・安価なガスジェット浮遊法を用いた熱物性計測手法を検討した。

「今後もいろいろなことに挑戦したい。小澤先生と関係者の皆様に深く感謝します」

初の「満点」最優秀賞

毛利セッション西村さん 小澤研、3人も敢闘賞

微小重力環境を利用し材料や生物の科学を追求する日本マイクログラフィティ応用学会第35回学術講演会（10月25、27日、那覇市の沖縄産業支援センターで開催）の、毛利衛宇宙飛行士が審査委員長を務める毛利ポスターセッションで、小澤俊平教授の研究室の西村美咲さん（先端材料工学科4年）が最優秀毛利賞、菅原陸さん、高橋勇太さん（ともに先端材料工学科攻修士1年）、堀内豪暉さん（学科4年）の3人も敢闘賞を受賞した。

西村さんの発表には審査員全員が満点を付け、しかも学部4年生の最高賞は同セッションで初めて。発表後、他大学の教員から、西村さんと千葉工大の教育について小澤教授に質問が集まった。4人の発表内容などは次の通り。

西村 美咲さん

「3元系合金融体の表面張力の推算」

新材料開発などに重要な金属の表面張力値について、多元系合金融体の表面張力は組成変化や雰囲気、温度、不純物の影響を受け、測定パラメータ

多く困難だ。そこで純体金属の限られた実験データを元に、合金融体の表面張力を推算するモデルを構築。重量の影響がなく正確な値が測れる宇宙実験の結果と非常によく一致し推算モデルの妥当性が確認された。

ポスター発表は、足りない知識や別のアプローチの提案などが多かったことに加え、心から「光栄な賞をいただきとてもうれしい。小澤先生、栗林先生（千葉工大附属研究所）、研究室の先輩方のおかげで、心から感謝します」

堀内 豪暉さん

「Fe-Cr合金融体の表面張力測定」

（左から）菅原さん、高橋さん、西村さん、堀内さん



多く困難だ。そこで純

金属融体の限られた実験データを元に、合金融体の表面張力を推算するモデルを構築。重量の影響がなく正確な値が測れる宇宙実験の結果と非常によく一致し推算モデルの妥当性が確認された。

ポスター発表は、足りない知識や別のアプローチの提案などが多かったことに加え、心から「光栄な賞をいただきとてもうれしい。小澤先生、栗林先生（千葉工大附属研究所）、研究室の先輩方のおかげで、心から感謝します」

堀内 豪暉さん

「Fe-Cr合金融体の表面張力測定」

JOB & CAREER AFFAIRS

就職・進路支援 便り

就職・進路に関する情報をお届けします

内定獲得へ、どう準備

3年生と修士1年生は、いよいよ就職活動の本番間近です。自己分析や業界・職種研究、各種対策（筆記試験・履歴書・面接など）の準備が、内定獲得へのポイントです。準備が多くの何をしたらよいのかわからないなど不安があれば、個別相談も可能です。就職システムの個人面談予約や、窓口の当日面談予約を積極的に利用してください。

OBOG懇談会／若手中堅社員交流会（1月開催分）

日程	参加予定企業の一部	開催方法
1月16日(火)	(株)キングジム、レンゴー(株) 他	対
1月17日(水)	(株)アルファシステムズ、CTCテクノロジー(株) 他	対
1月23日(火)	TOPPANホールディングス(株)、(株)日立ハイテクソリューションズ 他	OL
1月25日(木)	(株)アルゴグラフィックス 他	OL
1月15日(月)、22日(月)、24日(水)は企業未定/OL		
対象：全学年		
予約：就職システムの支援行事予約		
★各回10社程度が参加予定。参加企業詳細や実施場所・時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。		
★服装自由		
★開催方法：対⇒学内対面/OL⇒オンライン		

4年生と修士2年生には、個別に電話連絡を入れることもあります。保護者の皆様と連携した支援が必要になることもありますので、その際はご協力をお願いいたします。

※4年生及び修士2年生で、既に就職や進路など卒業後進路が確定している学生は、速やかに就職システムで進路報告の登録をお願いします。

5年度前期グッド・レクチャー賞に13人

令和5年度前期のグッド・レクチャー賞に教員13人が選ばれ11月9日の受賞式で伊藤穰一学長から表彰された＝写真。



令和2年から、過去5回以上ベスト・ティーチャー賞を受賞した教員をDistinguished Teacher（抜群のTeacher）、過去5回以上グッド・レクチャー賞を受賞した講義をDistinguished Lectureと認定して表彰対象からは外すこととしている。これまでにプロジェクトマネジメント学科の鴻巣努教授がDistinguished Teacherに認定され、未来ロボティクス学科の米田完教授、教育センターの市川洋子助教、佐藤和 教授、引原有輝教授の講義がDistinguished Lectureに認定されている。

★今年度前期受賞者は次の通り（順不同）。

先端材料工学科・内田史朗教授
電気電子工学科・山崎克己教授、藤本靖教授
応用化学科・原口亮介教授
知能メディア工学科・菅木禎史教授、森信一郎教授
教育センター（工学部）・横山利章教授、福島尚子准教授、古川寛非常勤講師
教育センター（創造工学部）・野村由実助教
教育センター（社会システム科学部）・木島愛教授、中村達助教、高松佑介助教



村越 茂氏



先川原 正浩氏

教育功労者に2氏

県私学教育振興財団が表彰

本学の先川原正浩・末来ロボット技術研究センター室長と村越茂・工作センターグループ長が12月2日、千葉県私学教育振興財団から教育功労者として表彰された。

先川原室長は、平成15年6月に勤務以来、本学がさらに発展するきっかけとなった末来ロボット技術研究センター発足から同センターの事務局を務め、学内外への広報活

サンカルロス大、ホーチミン工科大と亀田研究室の参加者たち



少年交流支援「さくらサイエンスプラザ」の助成で来日が実現。3大学の学生・教員たちは船橋市の海老川で採取したマイクロプラ（5μ以下の微細プラ）の大きさに別れ、4チームに分かれ、前処理と試薬やフーリ

アジア2大学招き学習

亀田研

アジア海域に汚染が広がるマイクロプラスチックの共同観測へ向け、フイリピン・セブ島のサンカルロス大とベトナムのホーチミン工科大の学生・教員14人が9月11～20日の10日間、津田沼キャンパスを訪問。都市環境工学科・亀田豊研究室の学生たちとワークショップを開き交流を深めた。両大学と亀田研はマイクロプラスチックや水環境の研究で交流があり、科学技術振興機構に申請し、アジア青年交流支援

安心と希望を

津田沼1号館前にイルミネーション

イルミネーションの光で世の中に少しでも安心と希望を。今年もクリスマスを迎え、大学祭初日の11月18日（土）から津田沼キャンパス内のヒマラヤ杉をメインに光の世界が展開された。

外構を本学公式キャラクター「チバニー」のポスターが彩り、1号館前の中庭には、入試広報部の学生スタッフが飾り付けたグランドイルミネーションが、さまざまな形で

工変換赤外分光法による測定方法、解析ソフトの利用方法などを学び、結果を報告し合った。亀田研の学生は講師役として研究室で学んだ手

法を英語で説明。会話が苦手の学生たちが最後は一緒にランチに出かけた。手持ち花火会を開いて積極性が芽生えた。

参加学生からは「最終日の解析結果発表会は素晴らしいだった」「我々を理解しようと努力してくださった皆さんのおかげで、貴重な経験を得た」との声も寄せられた。調整役を果たした藤田恵美子研究員は「ホーチミン工科大からその後、マイクロプラスチック研究班を組織中と連絡がありました。アジア海域での共同モニタリング体制充実へ、一歩進むことができました」と、成果を語った。



点灯。夕暮れに癒しの光景が広がった。写真。巨大ツリーと外周電飾、グランドイルミネーションの約3万球の消費電力、計1600ワ余は、太陽光発電で賄っている。

活躍する 校友

北海道テレビ放送(株)営業局長

橋本 秀利さん (55歳)

(平成3年、電子工学科卒)

「マルチ人間でない」と務まりません」。北海道テレビ（HTB）営業局長の橋本秀利さんは、そういって話している。

「北の都」の中心街にそびえる「さっぽろテレビ塔」をほぼ目の前に望む本社ビル（札幌市中央区）。営業セクションを任されて半年あまり、視聴率をにらみながら地域の人々に貢献するメディアを目指す。その視野の広さと柔軟性は、苦学の中でつちかわれたよつだ。

仲間と大学に支えられ 地域に役立つメディアへ



「理系の学びは役立ちました」と橋本さん

「マルチ人間でない」と務まりません」。北海道テレビ（HTB）営業局長の橋本秀利さんは、そういって話している。

「北の都」の中心街にそびえる「さっぽろテレビ塔」をほぼ目の前に望む本社ビル（札幌市中央区）。営業セクションを任されて半年あまり、視聴率をにらみながら地域の人々に貢献するメディアを目指す。その視野の広さと柔軟性は、苦学の中でつちかわれたよつだ。

「理系の学びは役立ちました」と橋本さん

その後の異動も目まぐるしい。関東地区で地デジ開始の2003年（北海道は3年後）に報道制作センタースポーツグループへ、さらに視聴率を分析し新番組を開発する編成部長（10年）、報道情報局社会情報部長（14年）などを勤めた。技術畑より長い。自ら提案した「イチモ二」（平日朝6～8時）の世帯視聴率（テレビのある世帯でこの番組を見た割合）は13%。同じ放送時間帯では道内トップ（橋本さん）。編成局長だった23年春にはエグゼクティブプロデューサーとして開局55周年記念ドラマ『弁当屋さんのおもてなし』（4話、原作は喜多みどりさんの同名小説。ネットフリックスとAmazonで配信中）を制作。北海道の豊かな食料とホロリとする人情の展開が好評で、世界に見せたい日本のドラマを表彰する「東京ドラマアウォード2023」のローカルドラマ賞に輝いた（10月）。続編も作る。

北海道の中央部、新十津川町（人口約6300人）の兼業農家に生まれた。南の札幌市まで道央自動車道で約1時間。「札幌へ出るのも東京や大阪へ行くのも変わらない」と指定校推薦で本学へ。医療、ロボット、宇宙開発などに共通する電子技術に興味があり、電子工学科を選んだ。

苦学生である。学費・生活費は千葉市内の全国紙の販売店に新聞奨学生として4年間住み込んで工面した。いわば下宿代わり。未明に始まる朝刊のチラシ折り込みや配達、そして夕刊作業のほか拡張・集金も経験した。その間を縫

「マルチ人間でない」と務まりません」。北海道テレビ（HTB）営業局長の橋本秀利さんは、そういって話している。

「北の都」の中心街にそびえる「さっぽろテレビ塔」をほぼ目の前に望む本社ビル（札幌市中央区）。営業セクションを任されて半年あまり、視聴率をにらみながら地域の人々に貢献するメディアを目指す。その視野の広さと柔軟性は、苦学の中でつちかわれたよつだ。

「マルチ人間でない」と務まりません」。北海道テレビ（HTB）営業局長の橋本秀利さんは、そういって話している。

「北の都」の中心街にそびえる「さっぽろテレビ塔」をほぼ目の前に望む本社ビル（札幌市中央区）。営業セクションを任されて半年あまり、視聴率をにらみながら地域の人々に貢献するメディアを目指す。その視野の広さと柔軟性は、苦学の中でつちかわれたよつだ。

「マルチ人間でない」と務まりません」。北海道テレビ（HTB）営業局長の橋本秀利さんは、そういって話している。

「北の都」の中心街にそびえる「さっぽろテレビ塔」をほぼ目の前に望む本社ビル（札幌市中央区）。営業セクションを任されて半年あまり、視聴率をにらみながら地域の人々に貢献するメディアを目指す。その視野の広さと柔軟性は、苦学の中でつちかわれたよつだ。

五感を刺激 絵本の世界

建築・遠藤研が展示

建築学科・遠藤政樹教授の研究室による展示「ゆらゆらばらばら」は、柔らかな絵本の世界へ」が、9月20～30日、船橋アンデルセン公園子ども美術館（船橋市金堀町）で開催された。

「子どもの好奇心をくすくす、五感を使って楽しめる体験型の空間演出」がテーマとなっており、同研究室の28人による共同制作。

展示室1は「子ども図書館」、展示室2は「スケールアウト」と名付けられ、子ども図書館にはフェルトと木の合板を組み合わせた本棚に多くの絵本を置き、自由に手に取って読めるようにした。

座る椅子は、薄く柔らかいカーテンに覆われた大きな和紙のランプの下に置かれ、写真上「一人だけの空間を楽しめる」ようにした。形が「徐々に巨大化」していく棚は



「日常的な大きさから抜け出す」新体験をしようというように作った。

スケールアウト（空間や物の大きさを錯覚して楽しんでもらう）には、和紙に包まれた巨大な竹組のアーチドームを設け、ドームの中に親子が入って遊んだり、写真中、寝転んだりできるほか、いろいろな大きさの

和紙に包まれた巨大な竹組のアーチドームを設け、ドームの中に親子が入って遊んだり、写真中、寝転んだりできるほか、いろいろな大きさの

和紙に好きな絵を書いてドームに貼り付けることができるようにした。

学生の斬新なアイデアと優しい工夫が詰まった空間に、会期中は「子供も大人も楽しめる空間」と親子連れが訪れた。

23、24日の土日曜日に、展示の制作リーダー・小山翔太郎さん（建築学専攻修士2年）は「展示

が完成し、子どもたちが遊んでいる姿を見られてうれしい。親子一緒に楽しむ姿は個人的な喜びにもなった。体験や経験は子どもにとってとても大切。作ることが大好きなので、これからも好奇心をくすぐるものを作っていきたい」と話した。

新任紹介

(敬称略)

竹内知哉 主席研究員



(数理工学研究センター) 環境整備が行き届いたキャンパス、交流の場が多く設けられ明るい雰囲気など、専門分野の枠を超えて協働できる契機に恵まれています。今後は数学的手法を軸として、実社会に潜む課題の発見や解決に貢献していきたいと思えます。

木村宏 上席研究員



(惑星探査研究センター) 私たちの住む地球が、広大な宇宙の中に唯一無二の生命を営む惑星なのか、それとも、生命の誕生は宇宙に普遍的な現象なのかを明らかにしたいと思えます。

趣味は作詞・作曲。

同窓会



この記事を書いている時期は、12月であり師走です。12月なので寒い季節になるはずですが、暑かったり寒かったりどすけジュールだけでなく気温でも落ち着かない12月。気温だけで10月くらいなのかなと思ってしまいます。そんな気温が落ち着かない12月、卒業生の訪問が増えている気がします。

事前に連絡後の訪問、ふらっと訪問、突然の訪問、訪問のパターンは様々で落ち着かないですが、うれしい限りです。何よりも卒業生が就職先でうまく仕事をしているか、就職先の上司とうまくいっているのか、時々気になってしまつことがあります。そんな中、研究室に訪問してくれる卒業生の顔を見ると安心します。仕事に慣れて、

日々充実した生活を過ごしているような表情でした。また、別の卒業生からすればむしろ「先生が健康を崩していないか心配して来ました」など心配してくれる卒業生もいたりします。結果的には、私だけではなく卒業生も互いに健康で過ごしているか気にしているんだなと思えました。

またの訪問、お待ちしております。

経営情報科学科 小野 浩之

四季雑感



2023年も残すところあとわずか、今年はどういう年を過ごしてきたか思い出しながらメモしている。というのも、英国の友人達とXmasカードでお互いに近況報告をするのが恒例行事になっているからだ。英国滞在中に娘が誕生して、30年があつという間に経ち、

同年代の友人達との内容も、最初は子供の成長が話題だったが、自身の健康、社会活動や旅行の話、さらに年をとると親の話など共通の話題で参考にするものは多い。

子供達も学生の頃は毎年「今年は何をしたか」と私がしつこく聞くので鬱陶しく感じていたようだが、離れて生活している現在では素直に自分の1年を振り返ってくれている。毎年繰り返すことにより、皆自分の中にな

編集だより



誰もが年の瀬をひかえて慌ただしくなる時期、どしどし構えて読経をする師僧までも走り回るほどの多忙な月「師走」。本当に忙しく「あー」という間に時間が過ぎた。そんな目まぐるしい時期、我が家での唯一の楽しみが、年末ジャンボ宝

くじを買ったあとは、抽せん日（大晦日）まで、いろいろな夢想して、ドキドキ感やワクワク感を存分に味わう。慌ただしい年の瀬を楽しく過ごせていることこそ、すでに宝くじの効用を十分に得たことになるのかもしれない。

皆様におかれましても、良い年の瀬となりますよう……。

入試広報部 大橋 慶子

ロケガ高校生大成功

打ち上げを終了 報告会

人気講座「ロケットガール&ボーイ養成講座（通称ロケガ）」2023は、選ばれた高校生男女24人が一緒にハイブリッドロケットを製作して見事、打ち上げに成功。11月5日に終了報告会を東京スカイツリータウンキャンパスで開き、制作過程を振り返った。

し、打ち上げる。その過程でプロジェクトマネジメントや、ものづくりの楽しさを学べる講座。ハイブリッドロケットは火薬を使わず、液体あり

るいは気体の酸化剤と固体の燃料を組み合わせて推進剤とするロケットのため、安全性が高く、大きな推進力を得られる。打ち上げの様子は迫力が

あり、高度2000〜3000に達する。運営側は安全管理を徹底し、高校生たちも安全性に対する意識を学べる。

今年6月4日にキックオフ。新習志野キャンパスでモデルロケットを打ち上げ、燃焼実験を経て、夏休みに集中製作。10月28、29日、千葉県夷

隅郡御宿町の海上で打ち上げに成功した。なぜ参加？の質問に「他校の人たちと交流できる」「設計・製作技術、リーダーシップスキ

ル、最後まであきらめない力をつけたいと思った」「普段の学校生活では味わえない体験を講座で得られると思った」と意欲的だった。



御宿の海を駆け上がる手作りロケット



力を合わせて製作



打ち上げを見守る